

善意に感謝いたします



吾妻東部地区赤十字有功会様より十萬円の寄付をいただきました。

赤十字有功会とは、赤十字の国際性と人道的使命に共鳴された、日本赤十字社高額社員「有功章受賞者」の有志の方々により組織され、赤十字社の支援団体として活動されています。

この程、学校の図書整備に充ててほしいと寄付を頂きました。感謝申し上げます、有効に活用させていただきます。

「キッズキッチン教室」が実施されました



じょうずに切れています

昨年の十一月から三月まで月一回、計五回で小学生十六名が食育講話と調理実習を行う教室に参加しました。

教室は、食生活改善推進員の協力で、「肉まん」や「おっ切り込み」を作りました。最終日は、緑のふるさと協力隊も一緒に「バイキング料理」を作り、修了証書の授与も行われました。



お料理、何にしようかな？



力いっぱい練習してます

これからも料理に親しみ、「バランス」や「塩分」、「野菜の摂取量」など考え健康な体作りができていけることと思います。

3/8

葉タバコの種まきが行われました (タバコ耕作組合)



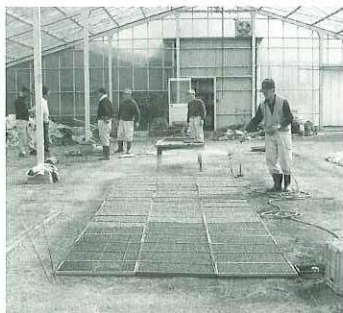
ていねいに種をまいています

三月八日(火) 熊野地区のタバコ育苗ハウスで、葉タバコの播種を実施しました。朝九時から総勢六人で、一連の作業が段取りよく行われました。

今年の村内の耕作農家は五戸、作付総面積は「約一ヘクタール」です。

県内では高山村の五戸の農家(中山地区一戸・尻高地区四戸)が耕作をするのみです。その高山村での葉たばこ栽培も、今年が最後になってしまふとのこと。

耕作者の方が、「タバコ栽培を続けたくても小人数じゃあ、出荷だのがよいじゃあねんだい。高山から



種まき後の灌水

タバコ作りの火が消えちまうんだい。」と、寂しそうに話しておられました。

*大正九年、七十五人で始まった高山村での葉タバコ栽培。二年目は百七十一人、三年目には二百五十三人に耕作者が増えていきました。昭和三十八年には三百七十九人となり、葉たばこの産地となりました。

高山情緒の歌詞にも「葉っぱ葉っぱ山と積んで、金は千万両」と出てくるほど盛んであった葉タバコ栽培も、徐々に耕作者が少なくなり、専売公社からたばこ産業株式会社にかわった頃に急激に減ってしまいました。